

学習の流れの例

- 自助・共助・公助についてp.32を参考に理解する
 - 自助は今までの学びで培っていることに気付く
- それぞれの課題について考える
 - 例) 備蓄している家庭が少ない、地域防災訓練に参加している人が少ない、地域の交流が少ない等

- それぞれの課題の解決策を考える
 - 例) 全生徒に備蓄の重要性を記したプリントを配布する、学校行事の案内を色々な場所に掲示し地域の方に来ていただく、家庭で防災について会話する等

学習後の生徒の姿

主体的に学習に取り組む態度

自助、共助、公助について知り、それぞれの課題を見つけ、他者と協力しながら課題を解決しようとしている

①阪神・淡路大震災では、7割弱が家族も含む「自助」、3割が隣人等の「共助」により救出されており、「公助」である救助隊による救出は数%に過ぎなかったという結果がある。災害を「他人事」ではなく「自分事」としてとらえ、減災意識を高め、具体的な行動を起こすことが重要。

※参照：内閣府防災情報
「平成30年版 防災白書 第1部 第1章 第1節 1-1 国民の防災意識の向上」

②東日本大震災においては、地震や津波によって、本来被災者を支援すべき行政自体が被災してしまい、行政機能が麻痺した。このように大規模広域災害時における「公助の限界」が明らかになり、自助、共助及び公助がうまくかみあわないと大規模災害後の災害対策が、うまく動かないことが認識された。

※参照：内閣府防災情報「特集 第1章 大規模広域災害と自助・共助の重要性」

③大規模災害が発生し、東日本大震災のような大津波が目前に迫ってきたとき、誰かが助けてくれるのを待つ時間は全くない。自分の命は自分でしか守れないということを強く認識する必要がある。

※宮城県大和町「自助、共助の重要性」

④阪神・淡路大震災では、倒壊家屋の下敷きになった人の約8割が家族や隣近所に救出されたそう。いざという時に協力し合い、助け合える「共助」の関係を隣近所と築くことが大切。

※参照：横浜市「自助・共助・公助」

⑤日本は自然災害が多いことから「公助」による取り組みが絶え間なく続いている。しかし、広い範囲で大規模な災害が派生した場合には、公助の限界についての懸念も指摘されている。

※参照：一般社団法人全日本防災計画協会
「災害に強い社会づくりにおける重要な考え方」

⑥外見からは分からない「援助」や「配慮」を必要としている方々を表すマーク。

※参照：横浜市「ヘルプマークについて知っていますか？」

三章 - 1 共 助

自助・共助・公助について

災害への対応は、自助・共助・公助に分類されます。この3つはどれか一つが欠けても成り立ちません。

めあて 自助・共助・公助について知り、それぞれの課題やその解決方法を考える。

自助

身の回りの安全を確保して、生活用品を用意したり、ためらわずに避難するなど、自分や家族の安全を守ることです。

- 備蓄をしよう
- はまっ子防災MAPを見よう

共 助

災害時に、近所同士で助け合い、困難を乗り越えるなど、自分たちのまちを、自分たちで守ることです。

- 近所付き合いを大切にしよう
- 防災訓練に参加しよう

横浜市の防災力

横浜市をはじめ、国、県、消防、警察、自衛隊など公的機関による救助・援助のことです。

- 人命救助、消火、避難誘導、医療など
- 支援物資、まちの復興・再建

公 助

身体状態や援助の必要を示すマークやシンボル
外見からわからなくても、援助や配慮を必要としている人がいます。このようなマークをつけた人を見かけたら、「困っていることはありませんか?」と声をかけましょう。

ヘルプマーク マタニティマーク

他このようなマークがあるか調べてみましょう!

災害時の外国人支援
言葉のわからない外国人のための支援方法も知っておきましょう。

※参照：横浜市「ヘルプマークについて知っていますか？」

行政の役割

災害が起きたとき行政は、避難所を開設する、救援物資を運ぶ、飲水を配給する、建物の被害状況を調べるなどさまざまなことをして、私たちの生活を守ってくれています。また企業や団体も、強みを生かして被災地を支援してくれています。

行政と企業の連携

神奈川県建設業協会 横浜支部
● 中区役所の訓練のようす (地下室にて分電盤を確認)

建設業の特性を發揮して、官公庁の行う防災活動に積極的に協力し、横浜市からの要請に基づき非常時の災害対応、復旧作業に従事しています。

地域の復興

釜石鶏住居復興スタジアム
● 震災から約10年後のようす (p23の写真と比べてみよう)

震災による津波で流された小中学校の跡地に、復興のシンボルとして建設されたスタジアム。2019年ラグビーワールドカップの会場のひとつでした。

①補助・助成だけでなく、防災訓練や防災イベントなど様々な対策を取っている。
※参照：横浜市「市の対策(公助)」

②国や県、警察や自衛隊・海上保安庁・電力会社やガス会社・鉄道会社・テレビや新聞などの報道機関、様々な会社や市民団体と協力している。
※参照：横浜市教育委員会「横浜市防災教育の指針・指導資料」-紙媒体

③ <平常時>
防災・減災教育の場として地震の揺れや初期消火、煙からの避難など、様々なコンテンツが体験できる、横浜市唯一の防災体験型学習施設。

<災害時>
大規模災害発生時には、隣接する「沢渡中央公園」と一体化した「一時避難場所」として、被災者の応急救護活動拠点となる。
※参照：横浜市民防災センター「横浜市民防災センターとは」

④災害時には、医療機関に多くの負傷者が殺到し、非常に混乱する可能性が考えられる。限られた市内の医療機関の中で、混乱なく受診するために大切なことは、
1. 平時から、地域にある医療機関を知っておく
2. 緊急度や重症度に応じて、どの医療機関を受診するべきかを判断することである。
※参照：横浜市「横浜市の災害時の医療提供体制」

- 共助・公助の学習テーマ：他業種で支え合う地域の防災「農業と防災の関係性について」
- 1) 食糧について…食糧を生産できる農家は貴重な存在
- 2) 水の提供…災害応急用井戸として1,916施設が登録済
- 3) 農機具の活用…災害時に活躍する資材
(例：一輪車→荷物運搬、くわ→トイレの穴を掘る等)
- 4) 防災協力農地…避難場所や物資の保管場所として449件約250ha登録済ここでは農業を事例に挙げたが、様々な業界が防災とかわる活動をしていることを学んでいきたい。

学校で学んだ英語を活かして、日本語表記だけでなく、英語表記も展示することの意味を考えることで、英語を学ぶ意義について意識できるようにする。

JA横浜 やるJAんちゃんねる：動画①【防災×農業】地域の絆！災害時における農業の可能性

JA横浜 やるJAんちゃんねる：動画②【防災×農業】防災協力農地とは？農家さんインタビューで学ぶ！

⑦妊産婦が交通機関等を利用する際に身につけ、周囲が妊産婦への配慮を示しやすくするもの。
※参照：厚生労働省「マタニティマークについて」

防災対策として、企業や団体も協力し横浜市が守られているということにも気付けるようにする。

2011年に発生した東日本大震災より復興(復活)する釜石を象徴したもの。本書でこれまでに学んだ災害が起こる前の備え、起こった後の対処に続いて、元に戻っていく希望も学んでほしい。被災地の現状を学び、どうしたら復興していけるのか、自分たちは何をしたらいいのかといったことを生徒自ら学び実践につなげていきたい。どのような復興を目指し、どのように復興計画を策定し、どのように復興を進めるのか事前の準備が重要である。

文字の色について
赤文字：単語の意味の説明
青文字：生徒への支援の視点や発展的な内容